

白河市立大信中学校だより



## 三年先の稽古

令和6年7月12日  
第21号

発行責任者：校長 亀田征利

教育目標  
～ 夢を求め、健やかで  
温かい生徒の育成 ～  
たくましく健やかな生徒  
いのちを尊ぶ温かな生徒  
真実と夢を追求する生徒

## 祝 大竹陽菜さん 少年の主張 優秀賞受賞

7月8日(月)に白河文化交流館コミネスで令和6年度白河市青少年健全育成推進大会少年の主張「～咲かせよう笑顔の花を!!子どもの夢と明るい未来のために～」が行われました。本校からは、大竹陽菜さんが学校代表として、タイトル「大切なもの」で出場しました。大会結果は優秀賞に輝きました。発表内容をお知らせいたします。(裏面)



## なりたい自分に向かってチャレンジする大信中生

今年度本校では、多くの生徒が各種検定試験（漢字・数学・英語）に挑戦しています。高い級（おおむね3級以上）を取得すると、高校入試の際に学校によっては優遇されます。写真は、英語検定3級と準2級の2次面接の練習の様子です。経験者が初めて受ける人のサポートをしたり、3年生が下級生を応援したり、熱心に練習に取り組みました。7日(日)に9名の生徒が2次面接に臨みました。白河市内の試験会場に赴き、他の小・中・高生に混じって試験を待つ雰囲気はとても緊張感がありますが、こういった経験をしておくことも「なりたい自分」の実現にはよい経験だと思います。今回の受検者が次の仲間のサポートをしてくれることを願います。



# 「大切なもの」

大信中学校 3年 大竹 陽菜

あなたにとって、「大切なもの」は何ですか？その「大切なもの」を守ることができていますか。私にとって、一番大切なものはお金やスマホではなく、人間一人ひとりの命だと思います。私には、とても愛おしく感じる大切な人がいました。毎日、目を見て私の話を聞いてくれて、励ましてくれたり、笑わせてくれたり、私を温かく包み込んでくれる人でした。泣きたくなるようなことがあっても、一緒にいてくれるから、大丈夫だと思えました。その大切な人は、約一年間病氣と闘い、天国へ行ってしまいました。いなくなってしまったことが、つらくて、悲しくて、戻ってきてほしいと強く思いました。亡くなってしまったこと、この世からいなくなってしまうということが受け入れられませんでした。もう会えないということに絶望しました。父と母のおかげで、長い時間を経て、何とかいなくなってしまう現実を受け入れることができました。思い返してみると、大切な人との別れは深い喪失感をもたらしましたが、私にとって、どれだけかけがえのない存在であったのかを知ることができたように思います。あの人の代わりはいない。大切な人、大切な命に代わるものはないのです。

令和4年2月24日、ロシアがウクライナに攻め込み、戦いが始まりました。31000人に50000人、合わせて約9万人。ロシアとウクライナの紛争で亡くなったとされる死者数です。実際はもっと多くの人々が犠牲になっているとも言われています。争いによって、多くの命が奪われているのです。いくらお金があっても買うことのできない、一人一つしかない人の命を人が奪うのです。人の命だけではないでしょう。動物の命も犠牲になっていると思います。人の命以上に、大切なものとは何でしょうか。何のために、戦っているのでしょうか。私は、争いによって幸せになることはないと思います。もし、私の家族が争いによっていなくなり、ひとりきりになってしまったら、どうなるのだろう。生きていけるのでしょうか。今、現在、戦っている人にも家族や大切な人はきっといます。争いを指示した人にも大切な人はきっといます。同じ人の命なのに、どうして差が生まれてしまうのでしょうか。権力や役職、立場で人の命の重さが変わってしまうことがあるのでしょうか。

3年生の国語の教科書に井上ひさしさんの「握手」という作品が掲載されています。「握手」の中に出てくる児童養護施設の園長、ルロイ修道士は、次のように言いました。「総理大臣のようなことを言うてはいけませんよ。だいたい、日本人を代表してものを言ったりするのは傲慢です。それに、日本人とかカナダ人とかアメリカ人といったようなものがあると信じてはなりません。一人一人の人間がいる、それだけのことですから。」ルロイ修道士は、人を差別しません。

「園長先生」であっても、施設で生活する子どもたちのためということが一番に、畑で野菜を育てたり、鶏の世話をしたり、自分が信じていることをしているのだと考えました。また、「それよりも、わたしはあなたをぶったりはしませんでしたか。あなたにひどい仕打ちをしませんでしたか、もし、していたなら、謝りたい。」という言葉から、自分に悪いところがあったら正直に謝ることができる、大人や子どもと区別するのではなく、「ひとりの人間」として捉えていることがわかりました。

地球上に生きている人間として、一人ひとり人の命の重さに変わりはありません。人が人の命を奪う、争い、戦争は幸せになれません。粗末にしていい命なんて、決して存在しません。同じ地球上で争いが起き、多くの命が奪われていることを「関係ない」と思わず、自分だったらと考える。自分の命も、まわりにいるみんなの命も、一つしかない。この命を大切に、精一杯生きていく。